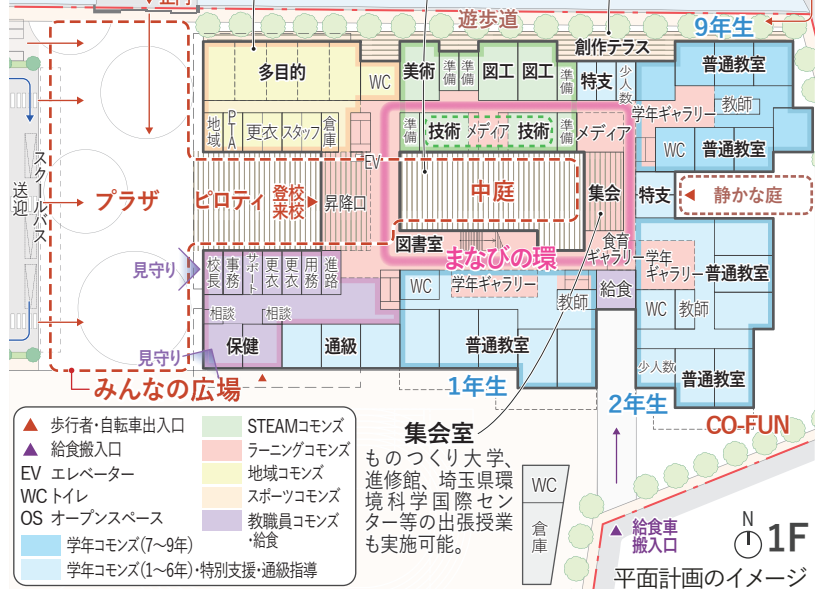
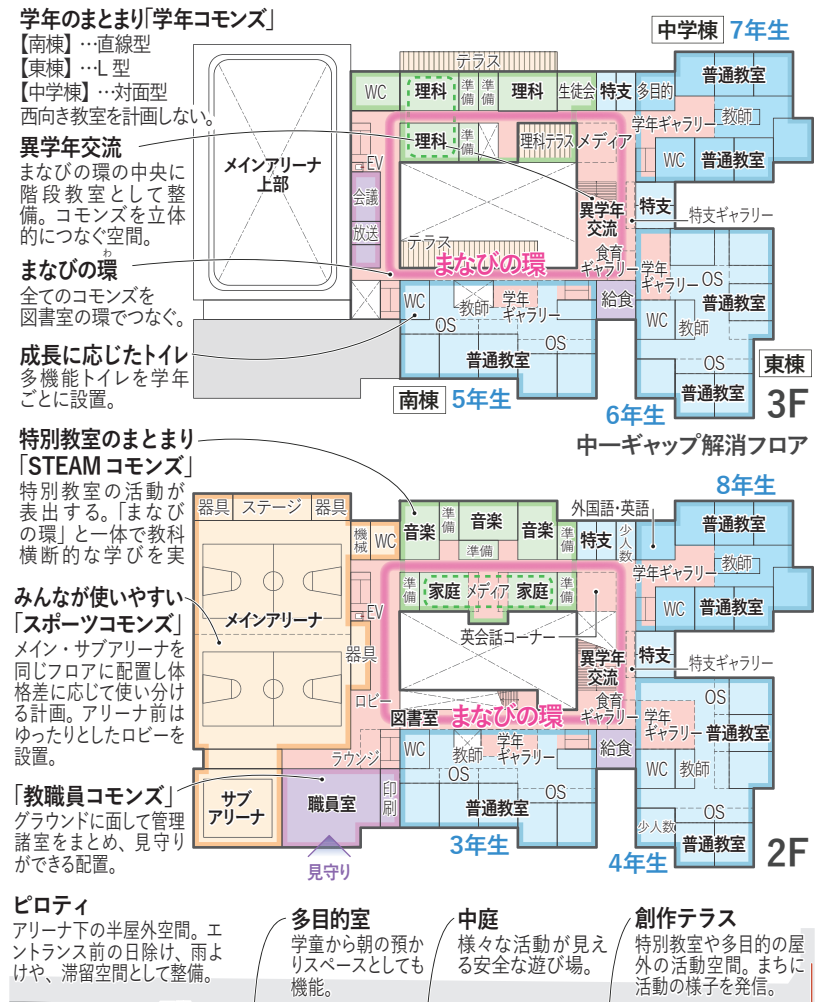
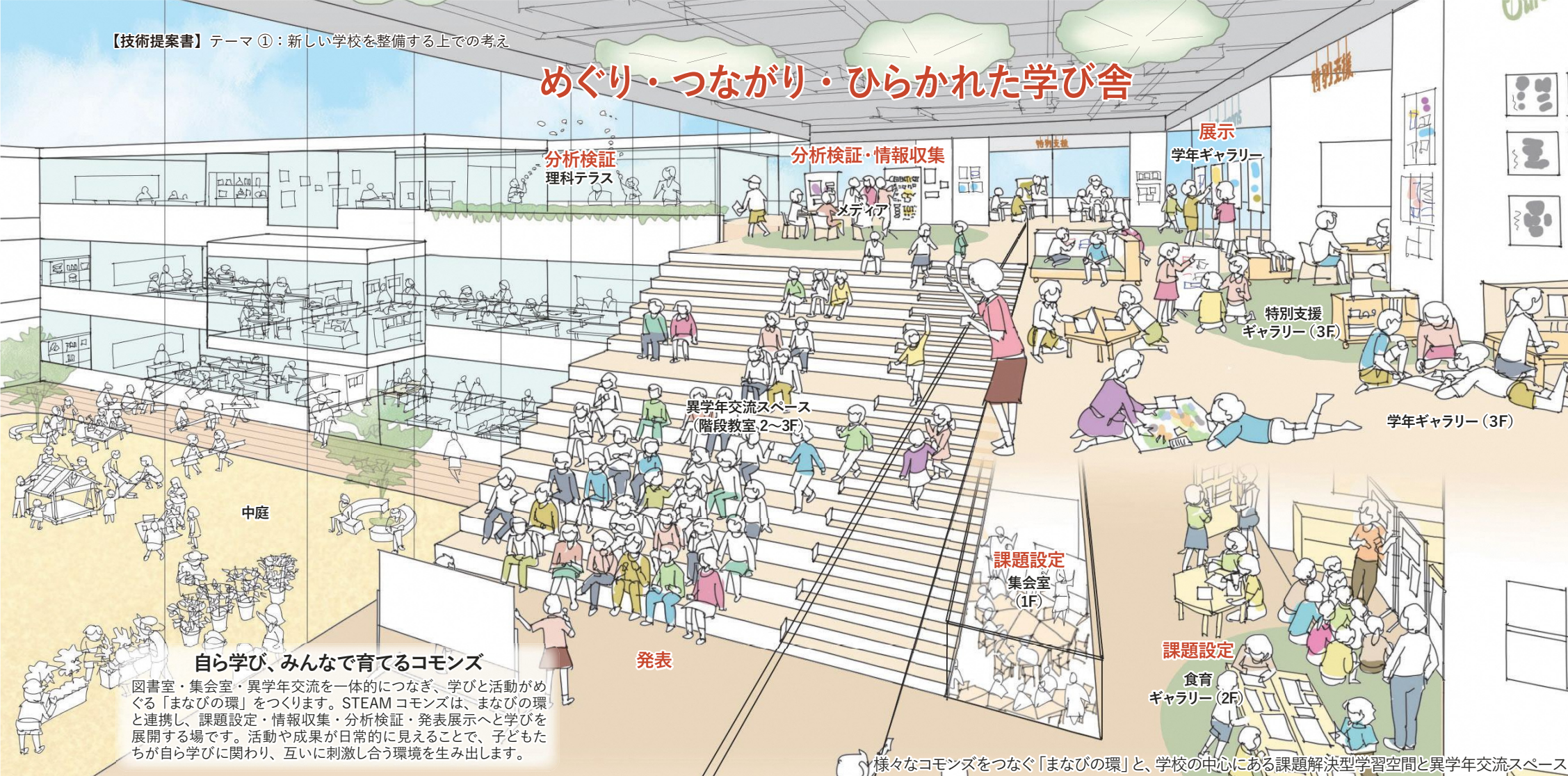
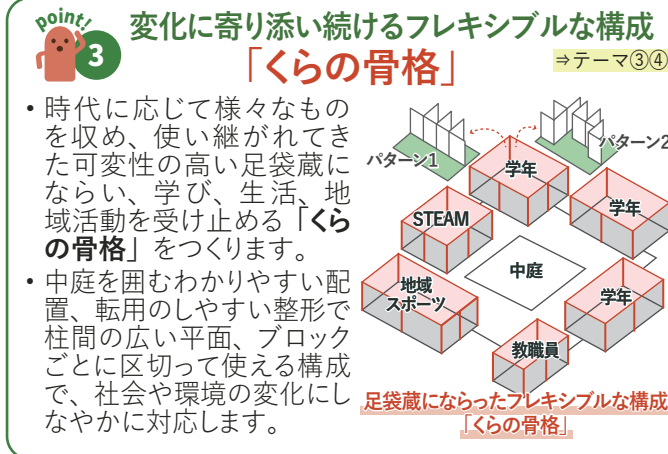
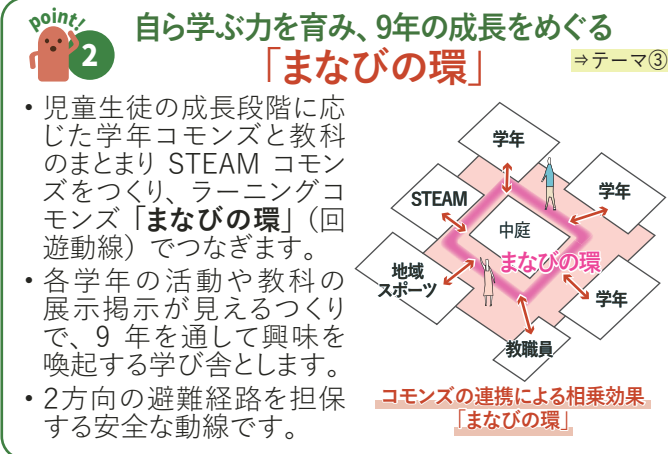
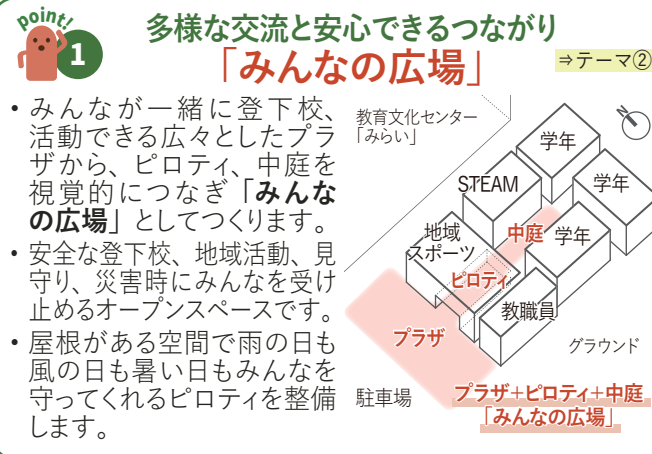


めぐり・つながり・ひらかれた学び舎



テーマ①-1 義務教育学校としての特徴や新しい時代に求められる学校像

1. みんなの広場・まなびの環・くらの骨格が支える新しい学び舎

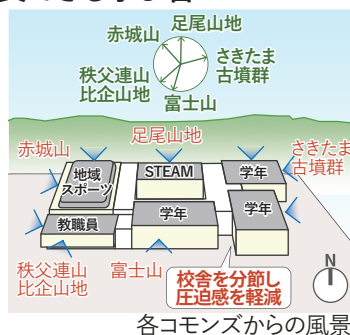


テーマ①-2 景観への配慮

2. 行田の風土に学び、風景とともに成長する学び舎

広く四方に開けた敷地特性を活かし、9年間を通じて自分のまちを感じながら成長できる学び舎

- 敷地は四方が開けており、北側には、赤城山、足尾山地、南西には富士山、東はさきたま古墳群が望めます。各コモンズから、方位に応じてそれらの風景が望めるよう計画します。
- 9年間で見える風景が変わり、自分のまちの風景と共に成長が感じられる配置とします。

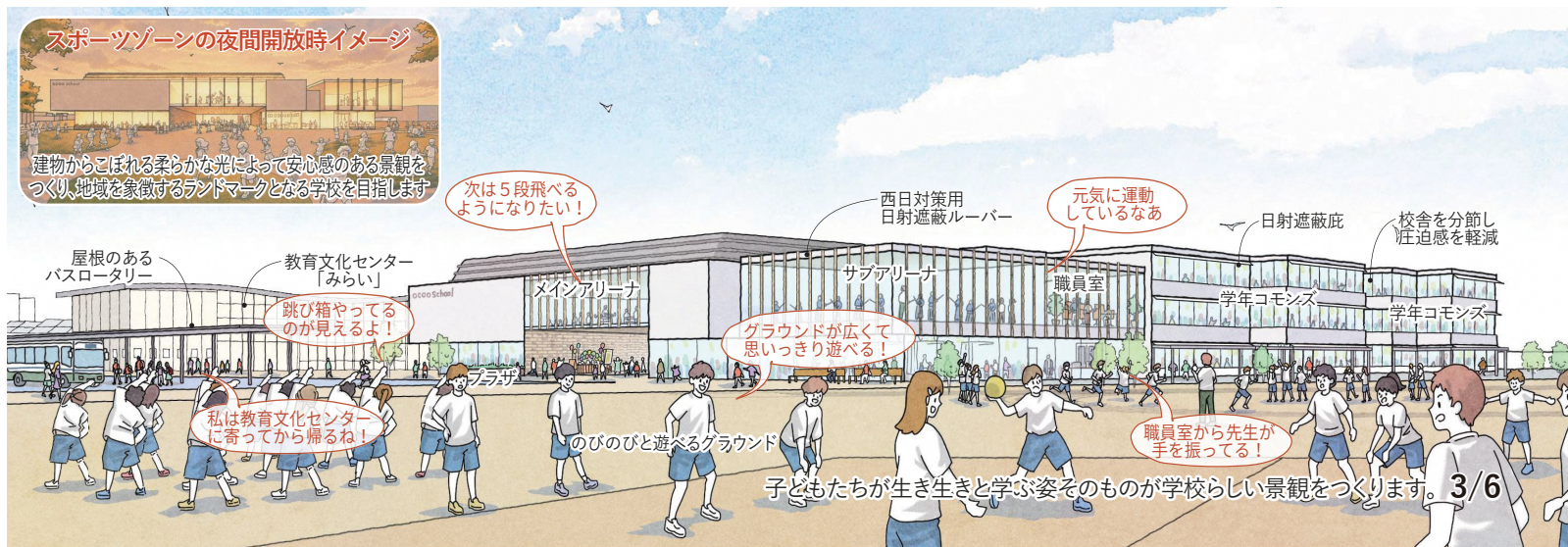
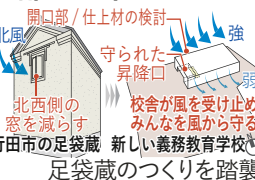


コンパクトな校舎でボリュームを分節し圧迫感を軽減

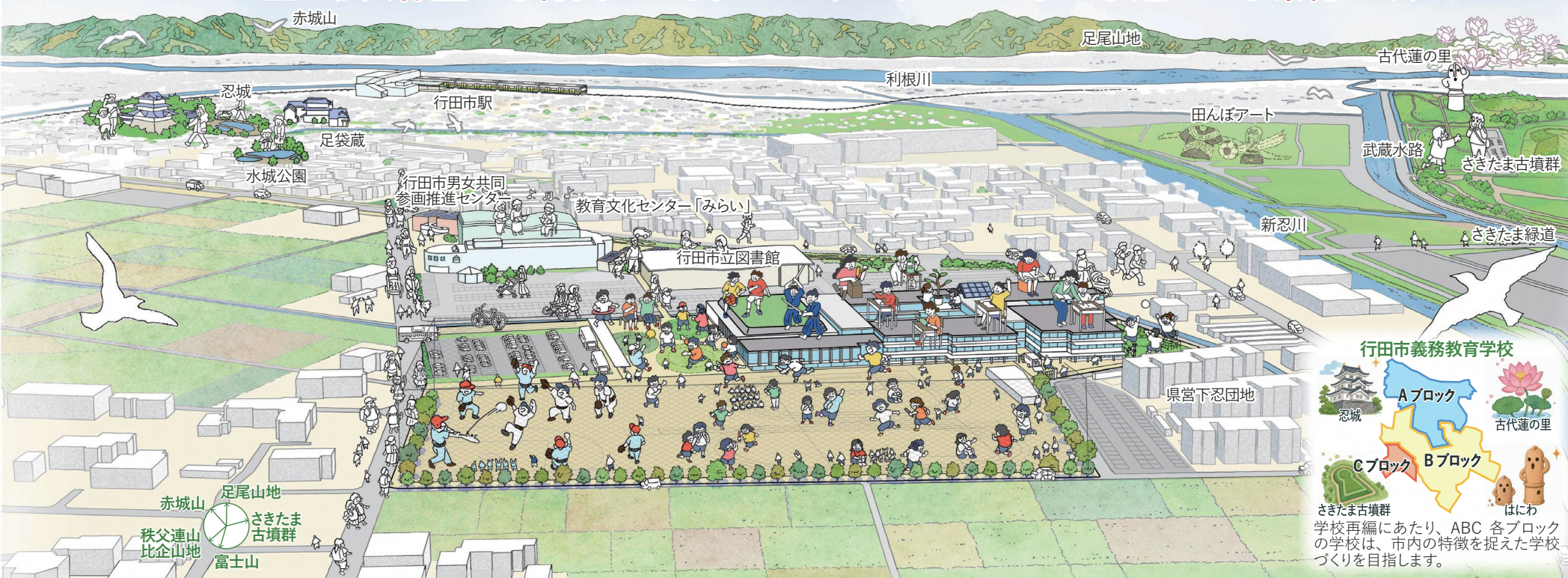
- 各コモンズごとにボリュームを分節し、圧迫感を感じさせないつくりと、外観からも、9年間の学びを感じられる構成とします。
- 体育館の屋根形状は遠くからでも認識できる形状と、圧迫感を抑えた形として、屋根面積を小さくしコスト低減できる形状とします。

足袋蔵に学び北風に配慮した開口部や壁材の選定

- 北風が厳しい敷地に対して、足袋蔵のつくりを踏襲し、開口部の適正化や仕上げ材の検討を行います。
- グラウンドやプラザへの北風は、校舎が風を受け止め、みんなを風からまもります。



空が広く緑豊かな行田にふさわしい すこやかにのびのび過ごせる環境づくり



テーマ②-1 周辺施設との連携、周辺道路や敷地の状況をはじめ、登下校時における子どもたちの安全確保などを踏まえた、敷地内における動線計画

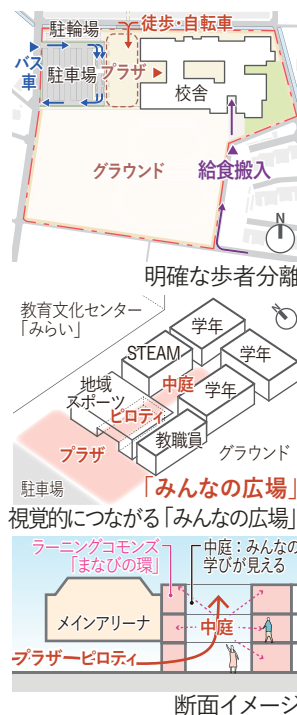
1. 登下校動線の安全性とみんなと一緒に登下校できる「みんなの広場」

明確な歩者分離

- 基本計画で示された明確な歩車分離を行います。
- 車両は西側の道路を使用し、徒歩や自転車で登校する子どもたちは北側の正門を使用します。
- 給食搬入は南側の給食センターに近い道路から搬入し、登下校やバスの出入口と干渉しない位置に計画します。

多様な交流と安心できる「みんなの広場」

- 歩者分離を徹底するとともに、プラザ⇄ピロティ⇄中庭を視覚的につなぎ、「みんなの広場」としてゆとりのある整備とします。
- プラザは、バスロータリー・保護者の送迎・駐輪場からのアプローチを中央にまとめ、より安全にみんなを受け止めます。みんなと交流が図れる空間とします。
- プラザやピロティは北風の強風時にも安全に通行できる軒下空間となります。多目的運動スペースとして活用できます。
- 中庭は、安心安全な学び場・遊び場であり、みんなの学びが見えることで、一体感を生む学び舎となります。



教育文化センター「みらい」とつながるアプローチ

- 教育文化センター「みらい」の出入口と校舎の位置を合わせ、北側からアプローチを作ります。
- 学校の生涯学習施設やアリーナを北側に配置し、連携しやすい配置とします。図書館、公民館と新校舎のアリーナ、地域コモンズが並びつがることで、生涯学習の拠点としてより幅広く使用できる計画です。

登下校空間と街並みを豊かにつくる

- 校舎北側の水路に沿って遊歩道を整備します。東西の門をつなぐ安全な登下校動線です。街路樹を植栽し、生徒の憩いの空間を整備します。
- 創作テラスを特別教室、多目的室までつくり、屋外空間も活動の場となります。縁側のように、まちに活動の様子が発信することで、まちに活力が生まれます。

体格差に配慮した広いグラウンド

- グラウンドは体格差に配慮した使い方ができる配置とします。面積は基本構想より広く約21,000㎡とし、200m/150mトラック、100m/50m直線コース、野球場、サッカーコートを設置します。
- みんなの屋外交流空間としてプラザを約3,000㎡設けます。

安全な遊びを育み楽しさを共有する「CO-FUN」

- 敷地東側には低学年グラウンド：CO-FUN を設けます。みんなと楽しさを共有できる、遊具広場として活用します。運動スペースとは別にゾーニングし、安全な遊び場を作ります。



テーマ②-2 近隣住民への配慮事項

2. 緑のまち行田に溶け込み地域と歩む学校

緑のまち行田に溶け込み地域と共に歩む学校

- さきたま古墳群を中心とした自然・田園景観区域、水の軸に近く、田園風景の広がる敷地において、自然環境をつなぐ水と緑のネットワークを設けます。
- 敷地周囲に設けた歩道を敷地の間の干渉帯とするなど現在の環境を活かしながら溶け込み学校を目指します。

近隣へ配慮し地域と共に歩む学校

- 近隣住宅から離隔を確保した配置計画と南側の集合住宅との見合いを避けた教室配置を行い、住環境に配慮します。
- アリーナ、グラウンド、屋外活動スペースから発生する音が住宅側へ直接届きにくい配置とします。
- 近隣の田畑への光を遮らないよう配慮します。校舎を北側に配置することで、グラウンドへ吹き降ろす風の軽減を行います。
- グラウンドは飛砂しにくい改良砂を使用し、配慮します。また敷地周囲には植栽を行い、視線の制御と飛砂対策を行います。

